

インフラ再設計が成長の鍵

野村総研・未来
創発フォーラム
上下水道例に解決策探る

「社会インフラの再設計が成長の鍵」。野村総合研究所は10月27日、東京都・千代田区の東京国際フォーラムで「未来創発フォーラム」を開き、国内外の中長期的な課題とその解決策などをディスカッションした。その中で、同社未来創発センターの神尾文彦氏は「社会インフラの再設計が豊かな社会と経済振興を実現する」と主張。水道事業などを例に、日本の「針路」を提言した。

神尾氏はまず「日本の社会インフラサービスは

世界トップクラスの水準にある」と語り、その代表例として上下水道を取り上げ、世界主要都市と比べた東京都水道の漏水

率の低さや上下水道料金の安さを説明した。

しかし、近い将来の大きな課題について「高度経済成長期に急速に整備された社会インフラが今後50年かけて次々と更新期を迎えるが、それに加えて総人口の減少に伴う

需要縮小、生産年齢人口

の減少、人口の高齢化と

いう社会状況の変化が重要なファクターになる。

日本は他の先進国よりも

激しい環境変化に直面する」と指摘。「このままでは、利用者負担の上昇か、サービス低下か

かの選択を迫られるシナマは避けられず、その解決策として社会インフラの再設計が不可欠」との見方を示した。

インフラ再設計のポイ

ントとしては、需要縮小に伴う「コンパクト化」、

ニーズ変化に対応した

「機能転換」、生産年齢人

口減少に対応した「横断管理」を挙げた。この中で、横断管理の先進技術として、小松電機産業の上下水道遠隔管理システム「やくも水神」を紹介。

「地域にある水施設をクラウドコンピューティングで結ぶネットワークを導入し、遠隔で広域の上下水道の運営管理を実現している例がかなり出てきている。多くの関係者にコラボレーションの機会が生まれたのもこうしたシステム導入の大きなメリット」と評価した。

さらに「再設計には官と民の連携が必要。国内の生産性が向上するとともに海外での競争力向上、市場開拓にもつながる」と述べ、「今こそイ

ンフラ再設計によるさらなる発展の好機だ」と主張した。



神尾氏